

2019年度は個人研究として、従来より続けている光と影のインスタレーションに関しては、光や影による表現を総括的に集めた展覧会への参加や演劇とのコラボレーションを行なった。また、展示作品以外に、若い世代のクリエイションの支援や、アンケート調査結果を機械学習によって可視化・分析する試みなどを行なった。なお、展示活動等は学内外を問わず「クワクポリョウタ」名義で行なっている。

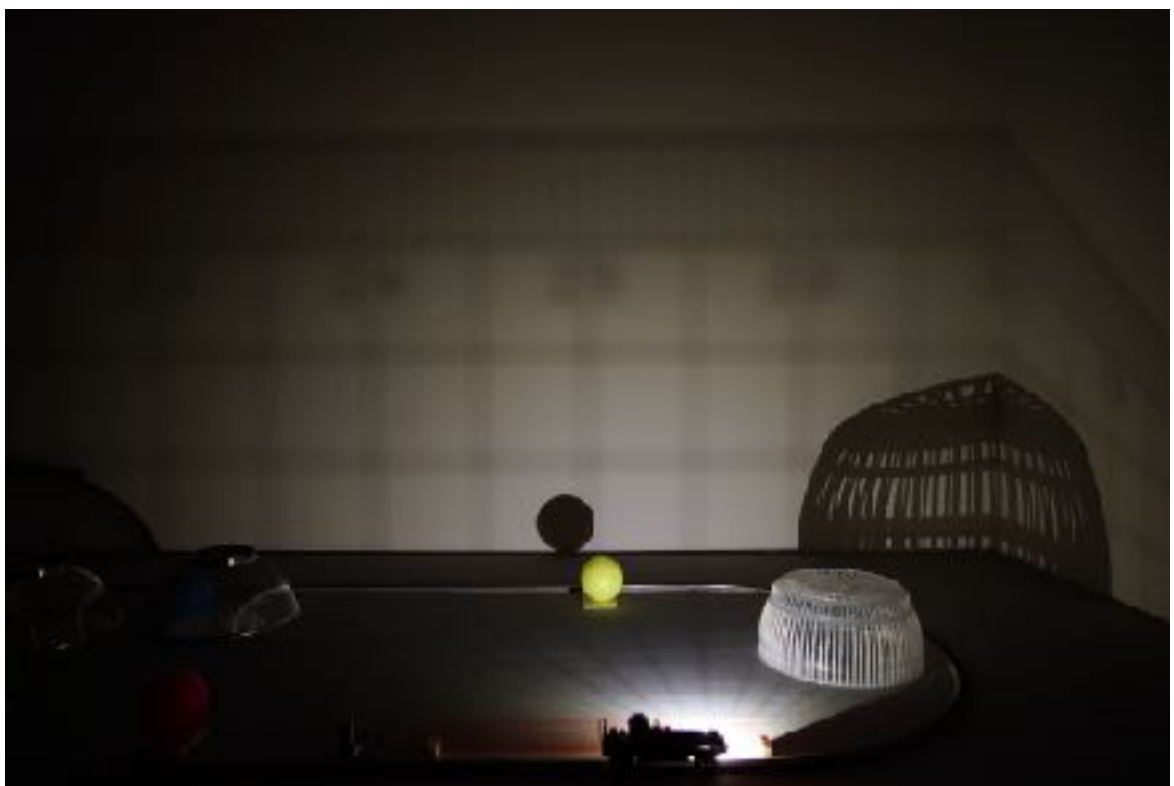
学外での活動

1 『あした と きのう の まんなかで』 (はじまりの美術館、2019年4月6日~7月7日)

日常の風景をテーマにした企画展に参加し《LOST#17》を制作・展示した。

はじまりの美術館 あした と きのう の まんなかで

<http://hajimari-ac.com/enjoy/exhibition/mannaka.php>



《LOST#17》

2 『PRISM FANTASY: New ways to view light』 (PARADISE ART SPACE、韓国 仁川、2019年4月19日~8月18日)

光による表現の諸相を集めた展覧会に参加し、《View or Vision》を展示した。

PRISM FANTASY: New ways to view light

<http://prismfantasy.org/>

3 『Beyond the Shadows』（奇美博物館、台湾 台南、2019年7月13日～6月2日 ＊会期延長予定）

影による表現を行う作家を集めた展覧会に参加し、《LOST#13》を展示した。

Beyond the Shadows

<https://www.chimeimuseum.org/当期展覧/4C579057-AAB3-4618-80B8-9F89975D0871/39/114>

4 『ビジョナリーキャンプ』（日本科学未来館、東京、2019年10月4日～ ＊常設展示）

日本科学未来館が主催する15～25歳を対象としたビジョナリー発掘・支援プログラムにおいて、企画採用グループの作品制作支援を行なった。このプロジェクトは、まず応募者がグループに分かれ「2030年のコミュニケーション」をテーマに企画をプレゼンテーションし、その中から採用された3グループが、研究者とクリエイターの支援を受けながら、作品を制作し常設展示を行うというプロセスで進められた。

筆者らは高校生3名のグループ（プロジェクト完了時）を担当し、認知科学の見地からの学術的助言を渡邊克巳教授（早稲田大学理工学術院）が、作品の実現に関する支援をアートユニットパーフェクトロン（筆者および山口レイコ）が行なった。

具体的には、担当するグループが設定した「コミュニケーションの「不完全さ」を受け入れる」というビジョンを展示作品としてどのように体現するかについて、ディスカッション、提案、試作などを通してバックアップした。彼らの考えは、将来いかにメディアが発達してもコミュニケーションの齟齬は克服されることはないだろう。むしろコミュニケーションの本質はその不完全さの中で生じるのではないか。というものであった。そこで、二人の体験者が別々の個室に入り、お互いの状況を電話で伝え合いながら一つのタスクを完了する展示作品を制作した。体験中の様子は録画・プレイバックされ、事後に二人で何が起きていたかを振り返ることができる。それによって体験者各々がどのような手段で状況を共有してきたかについて、気づきを促そうとした。

未来館ビジョナリープロジェクト

<https://www.miraikan.jst.go.jp/sp/miraikanvisionaries/>

5 『幸福はだれにくる』（あいちトリエンナーレ2019、愛知県芸術劇場：2019年8月16,17,18日、豊田市民文化会館9月21,22日）

名古屋市を拠点に活動する劇団うりんこの公演（演出:三浦基）において舞台上の映像美術を担当した。

劇団うりんこ＋三浦基＋クワクポリョウタ 『幸福はだれにくる』

<https://aichitriennale.jp/2019/artwork/A63.html>

6 「TOKYO MIDTOWN AWARD」アート部門審査員（2019年6月～10月）

東京ミッドタウンが主催するコンペのアート部門で審査員を務めた。

TOKYO MIDTOWN AWARD

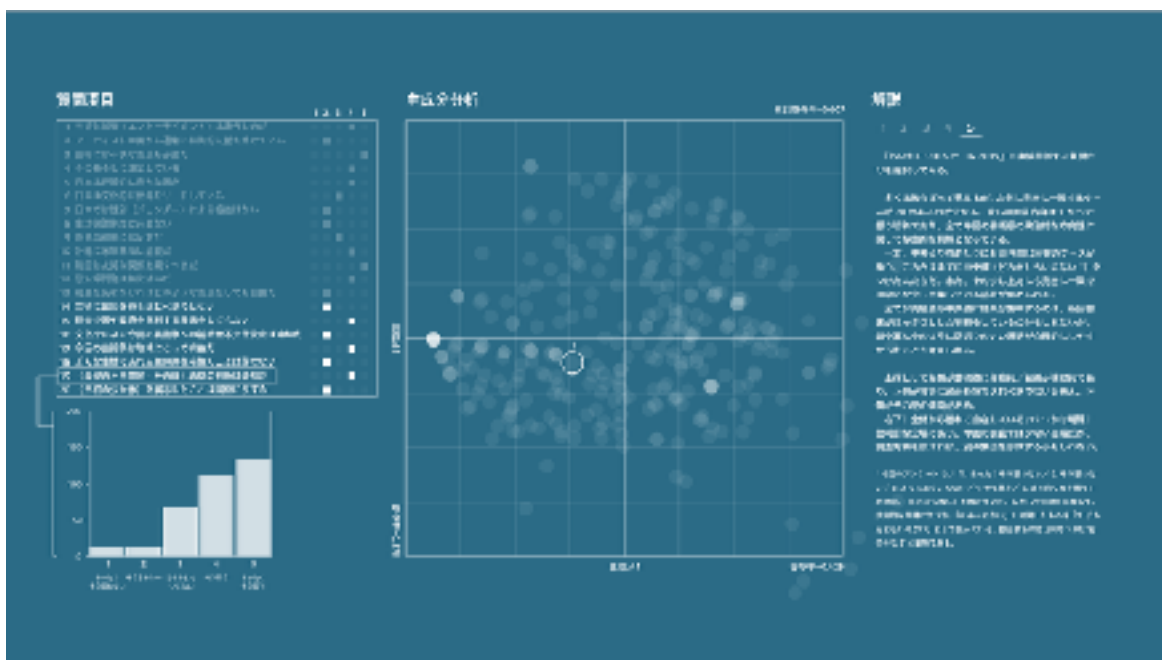
<https://www.tokyo-midtown.com/jp/award/>

1 「芸術祭来場者を対象とする、芸術と政治に関する意識調査と機械学習を活用した分析」(Archival Archtyping プロジェクト、岐阜大垣ビエンナーレ：2019年12月5～8日、IAMAS 2020 第18期生修了研究発表会・プロジェクト研究発表会：2020年2月21日～24日)

2019年8月1日から10月14日まで愛知県内で開催された芸術祭「あいちトリエンナーレ 2019」では、その中の企画展示《表現の不自由展・その後》を巡って議論が展開され、さまざまな論点によって分断が起きるのを目の当たりにした。表現に対しての具体的・個別の価値判断の対立が、政治的信条、性別、社会的・文化的立場などより大きな対立項に回収され、互いにラベル付けし合うような状況が発生した。このような状況に対し、自分固有の立場から距離を置いて客観的に事態を観察することを目的として、来場者に対してアンケートを行い、機械学習を用いてその回答の可視化と分析を試みた。

本研究は筆者が立案し、IAMAS Archival Archtyping プロジェクトの一環として所属メンバーとともに進めたものである。

企画：クワクポリョウタ
 監修：小林茂
 調査協力：厚木麻耶、武部瑠人、水谷珠美



《芸術祭来場者を対象とする、芸術と政治に関する意識調査と機械学習を活用した分析》実行画面